

[対応方針2] 文化観光施設としての環境整備

熊本城の価値や魅力を地域住民や国内外の観光客と共有する更なる取組みを進める。

(1) インバウンドを含めた来城者の理解促進のための環境整備

- ⇒多言語に対応した案内サインや、
復旧状況の進捗に合わせた解説板等を設置（20枚）
- ⇒多言語対応アプリの活用促進・周知看板設置



新設した解説板（特別見学通路）

(2) デジタル技術（DX・AI）の活用

- ⇒Webチケットの活用促進

~~R5年度 299,197人 ⇒ R6年度 380,598人~~

~~R5年度 15,617人 ⇒ R6年度 26,962人~~

- ⇒公式HPによる混雑状況やSNSでの外国語によるお知らせの発信
- ⇒地震前の櫓や石垣を再現したXRライドツアー実証実験の実施



XRライドツアー実証実験の様子

(3) アクセスの向上

- ⇒R5年度までの日曜日・祝日に加え、土曜日にも北口を開放
GW、お城まつり期間中などの夜間開園中に北口を開放
- ⇒SNSを活用したアクセス情報案内の発信
- ⇒R6年7月より、無料シャトルバスのルートを行幸坂往復に変更



ルートを変更した無料シャトルバス